

(様式3)

自己評価結果票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念として「私達は地域に開かれた地域に愛される地域に信頼される施設を目指します。」と掲げ実践している。又、グループホーム目標としては、「地域で自分らしく暮らし続ける事を支える。」事を目標に掲げ、日々、取り組んでいる。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回の職員会議の場で職員全員で施設理念を暗誦している。又、グループホームにおいても、スタッフ全員が目の届きやすい位置に掲示し、意識付けしている。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議の場で、グループホームの実態や認知症について報告し、理解をして頂いている。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	友人・知人等が面会に来られた際には、日常生活状態を説明し、再度の訪問と交流の機会を依頼している。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	知人や友人の面会も多く、地域のボランティアの訪問も日常的に行われている。8/22には毎年恒例の納涼祭が催され、大勢の方が来園されて盛況である。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り 組んでいる</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び 第三者評価を実施する意義を理解し、評価 を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている</p>		
9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以 外にも行き来する機会をつくり、市町とと もにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業 や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、 個々の必要性を関係者と話し合い、必要な 人にはそれらを活用できるよう支援してい る</p>	印 (取り組んで いきたい項 目)	今後、研修等があれば、積極的に参加し、学ぶ機 会を持ちたい。
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者の方へ異動になる事の説明、そして、新スタッフの紹介を利用者全員の前で行い、不安なく対応している。		
5.人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の職員会議でグループホーム内での話し合いを行うと共にスタッフの掲示版を設けて疑問点があれば随時、全員で話し合っている。(その他)法人内外研修等がある時は、参加させて頂いている。		
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3ヶ月に1回、グループホームの代表者が集まり、連絡前に話し合いたい議題を提案し、その内容について意見交換をしている。(グループホーム連絡会)		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	親睦会での食事会や旅行等への行事参加があるが、個々のストレス軽減に繋がっているかは、分からない。		
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	法人目標(経営理念・経営方針)を掲げ、毎年、グループホームの目標を全スタッフで考え、取り組んでいる。又、利用者の担当を決め、個々のプランニングを活かしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>		
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>		
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 利用者と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	年2回、家族交流会を実施し、毎年、ほぼ全員の家族が参加して下さる。6/28の交流会では、たんぼぼの家でバイキングを実施し、家族の方・利用者・スタッフ間の良い交流の場が持てた。面会時には、その都度、状態報告をしている。		
29 利用者との家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	年2回の地域交流会には全員参加の呼び掛けや面会時の状態報告を行っている。又、ゆったり過ごして頂けるような空間作り(オルゴール・一緒にお茶を飲んで頂く等)に努めている。利用者が落ち着かれる本来の場所は家族さんですよ、と常日頃から話している。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	デイ・サービスに来られた知人に会いに行かれたり、馴染みの店に外食、買物に出かけ、馴染みの関係を大切にしている。又、近隣の方と出たい、との要望があった際には、出来るだけ要望に添えられるように援助している。		
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	喫茶の時間(10:00・15:00)や余暇活動には声かけし、談話室で過ごして頂き、コミュニケーションを図る場を提供している。又、利用者同士で会話が弾んでおられる時は、そっと見守るように心がけている。		
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	何か相談等があれば、連絡又は、来園して頂くように声かけしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1.一人ひとりの把握				
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者から何か意見があれば、出来る限り希望に添えられるよう、スタッフ全員で話し合い、対応している。外出・買物の希望があれば、家族の方と相談した上で対応するように心がけている。</p>	<p>印 (取り組んでいきたい項目)</p>	<p>全員の希望・思いを全て把握し、納得して頂ける事は難しいが、利用者との話し合いの場を持ちながら、把握に努めていきたい。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入所前に生活記録表に記入して頂いたり、家族に家庭での暮らしぶりを尋ねたりしている。得意だった事を中心に入所後も続けて頂けるよう援助している。</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>個々の細かな様子を週間ケアチェック表に記入し、スタッフ全員が把握出来るようにしている。(色ペンを使い分けする事で申し送りに変化をつけている。)</p>		
2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>何か変化が起きた場合は即、スタッフ全員でカンファレンスを持ち、話し合っている。又、介護計画は、利用者・家族と話し合いながら作成し、出来ている事は継続して頂けるような介護サービス計画を作成している。</p>		
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>変化が生じた場合は、スタッフ間で話し合い、その結果を基に看護師・医師に助言を頂いた上で、家族と相談し、計画を作成している。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態を毎日、細かく週間ケアチェック表に記入し、特に申し送りが必要な状態の方については、介護日誌に記録している。直接、介護サービス計画の見直しに役立つよう、原本に記入している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	早期退院や生活維持の為に医療措置など併設の嘱託医が24時間体制で対応している。利用者は、併設のデイ・サービスへ気軽に友人に会いに行かれる等、交流の機会を持っている。		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	月1回、あったか相談員の方が訪問に来られたり、毎年1年間、近隣の高校生が授業の一環としてボランティアに来られる。		
41 他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスを利用する為の支援は現在の所、行っていない。		
42 地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議及び、グループホーム連絡会の場で、市の健康長寿課の職員との連携は図っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望を優先にかかりつけ医の受診を支援している。併設の嘱託医の受診も希望に応じて支援している。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	介護保険証更新時や変更時等においては、長谷川式を利用して認知症の判断を行い、それぞれの方に合ったサービス等を行っている。又、地域の病院の精神科医も電話にて相談して頂ける。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設の特養に看護職員が勤務されているので、その都度、健康面等の相談を行っている。又、助言・アドバイスを頂き、サービスに繋げている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入退院を含め、全スタッフが状態を把握し、医療機関との連携を図っている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者・家族の意向を確認している。一人ひとりの方針はかかりつけ医、家族と相談し、スタッフ間で共有している。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期での酸素療法、点滴等の必要性を家族に十分説明し、理解・承諾を得た上で、併設の特養と連携している。緊急時における携帯酸素の提供や医師の指示のもと、点滴も可能である。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	全スタッフが声かけに対する意識を強く持っている。又、個人情報、施設内で保管し、外部に持ち出さない様、徹底している。	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	一人ひとりの利用者の希望・要望に添えられる様、スタッフ間で話し合いの場を持っている。	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	買物・ドライブ・外食等、利用者の希望を取り入れている。余暇活動も何をされたいのか、事前に尋ね、用意をして、ゲームや塗り絵等をして頂いている。	
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	利用者が好みの服を選んで着ていらっしゃる。選ぶ事が困難な方については、スタッフが、2～3点出して、その中から決めて頂いている。又、毛染めを希望される利用者は、美容院へ行かれています。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>利用者の嗜好の支援</p> <p>利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っていらっしゃる方は買物の際、自分で支払っている。所持の困難な方については、買物の際の支払いは、スタッフの確認のもとで行っている。又、利用者自身の身の回りの物品については、家族と相談の上、出来る限り利用者に購入して頂いている。預かっているお金は、その都度、出納帳に記入している。	印 (取り組んでいきたい項目)	支払い能力が低下されている利用者については、スタッフが支払う事が多くなっている。「お金がない」と不安を訴えられる利用者には、預かっている事の説明と必要に応じて残金を共に確認して頂いている。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々、利用者の声を大切に、「外に出たい」「買物に行きたい」等の声が上がれば、買物・ドライブ・喫茶店等に出かける計画を立てている。又、利用者自身の日用品についても家族と相談の上、買いに外出している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年2回、交流会として、家族と利用者との外出を計画し、共に過ごして頂いている。遠方の場合には、希望者のみ出来る限りの希望に添えられるよう、援助している。(H.21.312~13 城崎温泉に一泊する。) 来春には全員で淡路島へ一泊予定。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特養と併設の為、施設中央に公衆電話が設置されており、利用者の方は利用されている。少し、距離もある為、行かれるまでが困難な方については、介助している。又、施設玄関前にはポストが設置されており、手紙やハガキ等を投函される利用者の方もいらっしゃる。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	24時間、いつでも面会が可能であり、玄関へお越し頂いた瞬間からゆっくりと落ち着いた時間を共有して頂ける様にオルゴール(CD)を流している。日中は、鍵をかけていない為、家族・知人の方も自由に来られる。又、玄関先では、うさぎが出迎えてくれる為、癒しの空間になっている様に感じる。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回、各部所の代表が集まり、身体拘束禁止について話し合っている。(チェックシートを作成し、×で記入している。)その内容を用いて、毎月の職員会議の場で発表し、スタッフ全員で再度、身体拘束ゼロケアに取り組んでいる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関は鍵をかけず、各居室・廊下等も災害時の非常ドア以外は常時、開いている。		
67 利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日々、利用者の状況を把握し、歩行時には、靴はしっかり履けているか、杖を持っておられるか等、スタッフ全員が一つひとつ確認し、安全に心がけている。夜間は、1・2時間間隔に各居室を巡回し、少しの物音にも気配りしながら、見守るようにしている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	物忘れのある利用者には、説明し、納得された上で、はさみや縫い針等、危険な物については、預かり、必要な時に使用して頂いている。又、居室にまな板や包丁を持参されている方については、衛生面と危険性を理解して頂き、食堂の台所の使用をお願いしている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒・ヒヤリハットについては、各部所の代表がリスクマネジメント委員会で集まり、話し合いの場を持っている。又、その内容を月1回の職員会議の場で発表し、スタッフ全員で、再確認している。又、利用者に少しの変化・気付きがある時は、掲示板に記入し、スタッフ間で話し合っている。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	携帯用酸素の使用方法を併設の看護師より教わり、スタッフ全員が保管場所と使用方法を理解している。又、急変・事故発生への対応については、マニュアルを作成しており、随時、確認出来る様にしている。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自衛消防組織が構成されている。法人全体でも避難訓練を実施している。又、たんぼぼの家においても、3ヶ月に1回、夜勤者のみの想定や出火場所を変更しながらの訓練を行っている。避難場所について、地震については、駐車場、水害については、2階地域交流室に避難する。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	利用者個々の状態・状況を把握し、リスクを伴う利用者には、スタッフ間で十分に話し合い、快く暮らして頂ける様に配慮している。法人のリスクマネジメント委員会にも出席し、話し合いの場を持っている。又、サービス計画書にサインを頂いている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	週間ケアチェック表と介護日誌から異常や変化が見られた時は、速やかに話し合い、早期対応に努めている。常時、表情観察をスタッフ全員が意識し、見守っている。		
74 服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自、お薬手帳を持っておられ、用法・用量・目的等、一目で分かる様になっている。又、薬は、利用者に手渡し、確実に服用される様に見守っている。変化のある時は、主治医に連絡し、相談・助言を頂いている。		
75 便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給や腸に刺激を与える様な運動、散歩等を行っている。又、食事面でも消化の良い物や食物繊維を多く摂って頂く等、工夫をしている。状態として、排便記録を付け、確認を行っている。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、義歯洗浄とうがいをスタッフの見守りの中、行っている。週3回(日・火・水)は就寝前にポリデント消毒を行っている。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設の栄養士が献立を立てており、アレンジ等を行っている。10時のお茶は「たんぼぼ喫茶店」という名前で、好みの飲み物を提供している。ケアチェック表に食事量と水分摂取量を記入している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルの配布と説明を受けている。手洗い・うがいはしっかり行っている。又、感染症が流行した時や冬季(10月~3月)には、夕食後に必ずイソジンで予防に努めている。使い捨て手袋やマスク等の備蓄も行っている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日の食材を近隣のスーパーより配達して頂いている。台所・調理用具はその日の食事当番が丁寧に洗浄し、食器乾燥器で乾かし、衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには、沢山の花や植物を栽培し、華やかで明るい雰囲気を作っている。玄関先のベンチでは、近隣の方が、散歩中の休憩にベンチを利用され、利用者との交流の場となっている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に入って頂くと、オルゴールがかかっており、長椅子に腰掛けて頂くと、可愛い2匹のうさぎが出迎えてくれ、利用者同士の憩いの場となっている。又、食堂のテーブルには季節に合った生花を飾り、利用者の方に見て頂いている。カレンダーや暖簾も月ごとに手作りの物を利用者と共に作り、飾っている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1日の大半を談話室で過ごされている為、気の合った利用者同士が座って頂ける様に、テーブルの位置等も細かく考え、配慮している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れたタンスや机、椅子、家族の写真等、馴染みのある物を使用されている。お茶碗・お箸・湯のみも利用者の好みの物を使われ、それに合った食器も陶器に揃えている。</p>		
<p>84</p> <p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>毎日の掃除時には、換気を行い、各居室のエアコンの温度調節も利用者に温度を尋ねたり、スタッフが直接、肌で温度を確認し、こまめに対応している。共用空間においても、室内が乾燥しない様に、バケツに水を入れる等の対応をしている。</p>		
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
<p>85</p> <p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>廊下・浴槽は必要な場所に手すりを備え付けている。浴槽の中、洗い場には、滑り止めマットも使用している。歩行が不安定な方には、歩行器や老人車を使用して頂いている。</p>		
<p>86</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>出来る事は利用者にして頂き、出来ない部分は見守り、そっと手を差しのべる介護を常日頃から、全スタッフが心がけている。</p>		
<p>87</p> <p>建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>玄関先には、ベンチが設置しており、天気の良い日は、日光浴をしながら、お茶を飲んで頂く等、楽しまれている。又、中庭では、うさぎが走り回っている姿を見て喜んで頂いたり、旬の野菜を栽培し、収穫する事を毎日、利用者が楽しみにされている。</p>		

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 す る 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・四季折々の野菜作り ・たんぼぼ便り ・利用者の希望で梅干し作り、らっきょ漬けをした ・機能低下を防ぐ為に個々に合ったりハビリ体操を取り入れている。 ・時間制限なく、24時間いつでも面会が可能である。 ・アニマルセラピーでうさぎを飼っている。(ピョン吉・うさ吉) ・全スタッフが明るく、優しい気持ちでゆったりと過ごす時間を共有している。 ・手作りお菓子を提供している。 ・カレンダー、のれんは手作りで飾っている。 ・利用者の要望に応えられる様、努力している。